

みんなで学び・交流しました 地域学習のおもしろさと授業づくりの過程

大学生と大学院生で10人。(そのうち2人は春から小学校の先生。)小学校の新任の先生1人、中学校の20代の先生2人、春から高校の先生1人。20代が14人。若い人が多く、活発な交流で学び合うことができました。

講座①

3・4年生と学ぶ「昔の暮らし」 小松 清生さん(元堺市立錦小学校)



地域に根ざした40数年の実践を報告。実物教材をうまく使い、文献から学ぶだけでなく地域に出かけ、地域の人に学び、専門家に学び、目の前の子どものことを考えての実践。子どもたちの様子が目に浮かびます。

会場からの質問も面白く、若い人たちは、疑問に思ったことは、何でも聞く。それに小松さんも参加者も答えるという質疑が楽しかったです。地域の人にお話を聞く小松さんの技。本で調べて知っていたお名前の

人の家を見つけ、お家のチャイムを鳴らす……。学校の名刺があれば大歓迎され、地元のすばらしい歴史の証言と写真をもらえて学習が深まっていく。すごいなあと思いました。

講座②

世界遺産と地域おこし授業プラン ～石見銀山をいかしたまちづくり～ 石谷 真一郎さん(大阪狭山市立狭山中学校)

石谷真一郎さんの報告も面白かったです。教師が何に関心を持ち、どのように教材研究していくか。

過疎の問題が教科書でどう扱われてきたかなども検討し、どんな教材で学習していくかと考え続け、旅行で見つけた風景から、生徒が問題意識を持つ場面を考え、発問を練り、授業を組み立てていく……。

生徒の反応を予想しながらの授業づくりの過程が学生さんや若い先生、ベテランにも大いに刺激になりました。



ワークショップ 教材・教具交流広場

大学生たちは実物教材のお土産には「早い者勝ち」、「奪い合い」でした。サヌカイトや「正長の土一揆」の訴状のコピー、鯉節削りなどの実物資料が人気でした。

全体交流では、若い先生が授業で困っている話なども出ました。自分の教室だけにこもらず、みんなで交流して学び合おうと呼びかけました。



とても参考になった！！ みなさんの感想から

○若い人が本質的なところで様々な悩みをもっていることが、とても新鮮で学べました。授業づくりを通して、フィールドワークもしたりして、たのしい授業にしたいという思いを強くしました。

○フィールドワークを通して多くのことを学ぶことができたと感じました。何気ない街並みの中にも、堺市の歴史が詰まっていたことに驚きました。地域社会に根ざした歴史を子どもたちが学ぶことは、大きな刺激となると感じました。小松先生の堺市に対する愛を強く感じました。強い意志を持って教育、歴史に立ち向かっていかなければならないと感じました。



○現場の先生方のお話を聞いて、先生方の教材研究の幅広さに驚きました。今、私たちが行っている模擬授業では、教科書の中の知識だけで使っていました。たくさん勉強していきたいと思います。実際にその場に行くことも大切だとわかりました。いろいろな先生たちにいろいろな意見が聞けて、とても良かったです。

○今回お話を聞かせていただいて地域学習の楽しさや難しさを理解できた。授業づくりの視点の取り方や、地域やその観光地に行った時の視点、目の配り方などが理解できた。テレビ一つを見ても、どう見るかによっては授業に使えることができるということも学べた。

○小松先生のお話を聞いて感じ考えたことは、教員としての「アクティブさ」や「積極性」の大切さです。これらの姿勢というのは、教育を行うものの根底に必要な資質だなと感じます。石谷先生の「石見銀山」の教材化のお話は、「フォトランゲージ」の使用タイミングや発問の工夫によって幅がさらに広がる教材だなと思いながら聞いていました。

○大学生が実際の教師の実践にふれて、考えることができて良かったです。このような会に大学生が参加することで、民間の研究関係に接近することの大切さを感じました。